

2024/25年課題に向けての企画・提案

- * モーダルシフト: 鉄道、内航船等の検討とB/L発行
- * 国内輸送との連携輸送: 復路での空コンテナ活用
- * フリータイム切れ対策: 船社指定の中継拠点活用
- * その他、新餌の研究、カーボンクレジット、QR活用

NPO法人エスコット
〒277-0011 千葉県柏市東上町4-17
連絡先: 080-4365-0861
<https://www.npo-escot.org>
ser.Kashiwa@gmail.com

モーダルシフト：鉄道、内航船等の検討とB/L発行

概要：

JR貨物盛岡デポ/地方港活用検討、仙台、酒田、小名浜港

期待効果：

- ①該当輸送区間のトラック輸送とCO2削減
- ②ディテンション、デマレージ延長：船社の実質払い額低減
- ③トラック輸送区間の短縮によるドライバー不足対策

アクション：

- ①船社に盛岡、仙台B/Lでの見積もりの追加要求

課題：

- ①ショートドレーコストの発生とコスト増の可能性



国内輸送との連携輸送：復路での空コンテナ活用

概要：

- ① 周辺荷主を巻き込んだラウンド輸送構築
- ② JR盛岡⇒JR東京ターミナル間で内貨輸送定期便の実証試験
 - * 上り下り双方向で必ず空コンテナが発生し、トランスロード作業可能

期待効果：

- ① 物流コスト削減
- ② CO2削減＝持続可能性向上

アクション：

- ① 周辺のエリアごとの物流情報収集と連携体制構築
- ② コンテナ活用における条件確認＝ハンドリングの相違点等

課題：

- ① 車上渡し条件に対する理解と対策＝パレタイズ、キャスター付きラックでの固縛法開発



フリータイム切れ対策：船社指定の中継拠点活用

概要：

①船社指定インランドデポ活用

- * 福島県：大竹運送/山形県：ヤマラク運輸/宮城県：アオバラ運輸等
- * 中継デポ：茨城県：吉田運送/栃木県：佐野インランドポート等

期待効果：

- ①バッファー機能/ドライバー時短
- ②空バン返却距離の大幅短縮 * 京浜返し⇒仙台港返しに変更等

アクション：

- ①船社の拠点における過不足状況を把握
- ②インランド・デポとの情報交換
- ③物流資源のシェア * みちのくアライアンス等

課題：

- ①中継の場合コストアップになる可能性あり
- ②全船社別の対応が必要

HOME > ニュース > 海運<コンテナ・物流>

2022年8月1日

茨城県坂東市に内陸CY設置

ONE ジャパン、B/Lの取り扱いが可能に

オーシャン・ネットワーク・エクスプレス・ジャパンは1日、茨城県坂東市にインランドコンテナヤード（内陸CY）を設置する。同内陸CYは現在も、内陸デポとしてコンテナラウンドユースや、空コンテナの引き取り・返却の拠点として活用されているが、新たに坂東内陸CY発着の船荷証券（B/L）の取り扱いが可能となる。

CYオペレーターは吉田運送。収容能力は700FEUとなっている。内陸CYの設置を通じて、コンテナの引き取りや、搬入・返却のトラックの往復回数と走行距離の合理化、CO2の削減をはじめとした環境負荷の軽減に貢献する。また、東京港の混雑軽減や、2024年度から強化されるトラックドライバーの時間外労働上限規制への対応として、内陸CYを活用した物流課題の解決につなげていく方針だ。

内陸CYの詳細は次のとおり。

- ▼名称＝坂東コンテナターミナル
- ▼住所＝茨城県坂東市半谷224-15
- ▼保税地区＝26W45
- ▼利用者コード＝2BYDU

その他、新餌の研究、カーボンクレジット、QR活用

概要:

- ①代替餌の積極的な検討
- ②CO2削減量の販売
- ③QRコード営業の導入

期待効果:

- ①持続可能性向上
- ②新たな収入源とCSR戦略
- ③新たな営業手法

アクション:

- ①海藻等の検討:ホンダワラ(=ミネラル豊富)、カジメの飼料化検証
- ②コンテナ・ラウンド・ユースは既にj-クレジットに登録済み
- ③タクシー方式での空車活用検証

課題:

- ①漁協等との調整が必要
- ②認証作業の可視化

新餌の研究:ホンダワラは毎年大量漂着 北海道では実証試験

2022年7月12日

船に絡まる海藻を飼料に ミネラルたっぷり、牛のメタン抑制も 北海道標茶高が研究

| 社会 | 食の安全保障

Twitter

Facebook

Line

Mail

沖縄タイムス



白い砂浜を茶褐色に染めた物体... 昨年80トン回収、今年も...

表示

出典: 沖縄タイムス



出典: 日本農業新聞

新餌の研究：海藻の塩分も活用 脱塩しなければ乾燥のみ

図3. 多量ミネラルと微量ミネラル



図2. 固形塩の設置例



ウシが舐めやすいように、牛舎の中やパドックに括り付けておきます！

出典：住友アグリビジネス(株)

カーボンクレジット:コンテナ・ラウンド・ユースはj-クレジットに登録済

1/13

方法論 EN-S-035(ver.1.0) 海上コンテナの陸上輸送の効率化

方法論番号	EN-S-035 Ver.1.0	本方法論に基づいてプロジェクトを計画する場合は、 方法論の改定が必要となる場合があるので、 計画書作成前に制度管理者へ確認してください。 <確認先メールアドレス> help@jcre.jp
方法論名称	海上コンテナの陸上輸送	

<方法論の対象>

- 本方法論は、輸入荷主は空コンテナを港へ返却し、輸出荷主は空コンテナを港から調達するという通常の輸送を転換し、輸入荷主と輸出荷主との間でコンテナのマッチングを行い、輸入荷物を下ろした後港に戻らずに同じコンテナに輸出荷物を積載することによって、空コンテナの国内トラック輸送量を減らすことで化石燃料の使用量を削減する排出削減活動を対象とするものである。

1. 適用条件

本方法論は、次の条件の全てを満たす場合に適用することができる。

- 条件1: 異なる事業者間においてコンテナのマッチングを新たに行うこと。プロジェクトの対象とする船会社及び輸出入港を、プロジェクト申請時に特定すること。
- 条件2: 排出削減量の算定に必要な項目をモニタリングするためのマッチング実施計画が整備されていること。

<適用条件の説明>

条件1:

プロジェクトの対象を明確化する必要性から、船会社と輸出入に使用する港をあらかじめ特定する必要がある。本方法論における算定式はコンテナの動きに着目したものとなっているため、輸入港から輸送される時点でマッチングされたコンテナを特定する必要があるが、コンテナは基本的に船会社の所有物であるため船会社を特定すればマッチングされるコンテナの特定が可能である。また、本プロジェクトはある程度地理的にまとまった地域を対象として実施されることを想定する。対象となる船会社のみ特定することを条件とした場合、船会社の数がプロジェクト上限数となる。これを排除するため、対象地域を限定する目的で輸出入港を特定することとする。ただし、複数の輸出入港を対象とし、広域に実施することを妨げないが、対象とする輸出入港を全て含めた実態のあるマッチング実施計画を整備する必要がある（計画については条件2参照）。

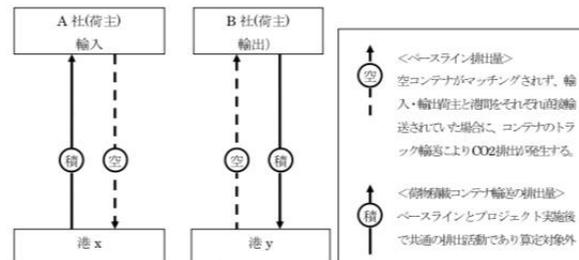
なお、プロジェクト登録後に対象とする船会社及び輸出入港を追加する場合は、改めて妥当性確認機関による再妥当性確認を経て、プロジェクト再登録申請を行わなければならない。

※本方法論において「マッチング」とは、コンテナが輸入港から陸上輸送される時点で、輸入荷主と輸出荷主との間でコンテナの共有が予定されることを指す。一度マッチングされれば、コンテナは輸送途中の破損等の事情により結果として輸出荷主へ受け渡されなくとも、別の代替空コンテナが受け渡されることになる。本方法論において「マッチングされたコンテナ」というとき、輸送途中で破損等の事情で当初マッチングされたコンテナに代替されたコンテナも含む。これは

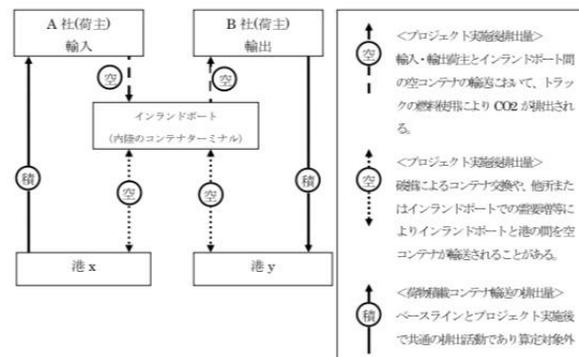
1

方法論 EN-S-035(ver.1.0) 海上コンテナの陸上輸送の効率化

図2及び図3はプロジェクト実施後の輸送形態の代表例である。マッチングされたコンテナは輸入荷主から輸出荷主へ、インランドポートを経由し又は直接輸送されて受け渡される。また輸送中の破損や別の急な需要の発生により結果的に当初のコンテナが受け渡されず、輸出荷主に対して別の代替空コンテナが受け渡されることもあり得る。プロジェクト実施後排出量は、このような代替空コンテナの輸送も含めマッチングされたコンテナが空コンテナとして輸送された全ての経路の排出量である。



【図1】ベースラインにおける輸送形態



【図2】プロジェクト実施後における輸送形態例（インランドポートを経由する場合）

3

カーボンプレジット：NPOエスコットでは第3者認証システム「CORCS:コルクス」を運用しています。



CORCS

CO2 Reduction Certificate System

効率的なコンテナ物流 = 気候変動対策

効率的なコンテナ物流は、CO2削減効果があります。

コンテナラウンドコース

ラウンドコースは、コンテナ物流効率化の要。

ターミナルへの空コンテナ往來が減るので、CO2削減効果は絶大です。

空コンテナ返却 PICK場所の変更

不足拠点に返し、過剰拠点からのピックでCO2削減できます。

NPO法人エスコット
千葉県柏市東上町4-17 ・ info@npo-escot.org ・ https://npo-escot.org ・ 04-7166-4151



CORCS

CO2 Reduction Certificate System

御社のCO2削減量を認証します。

効率的なコンテナ物流を通して、CO2削減を行なう企業様が、更なる成功を手にする提案をご用意いたしました。



ヒアリング コンサルティング

御社の物流が、どの程度CO2排出量を把握し、改良するプランを一緒に考えていきます。



有識者チーム による監査

有識者(自然科学系を含む)が御社から提供された資料を科学的に検証します。



CO2削減量 の計算

政府認定のCO2排出量算定方法に基づき計算します。



データベースに 削減量を保管します

データベースに貴社のCO2削減量を蓄積し、削減量を可視化することができます。



第三者機関認証書

「中立公平な」NPO法人が、発行するCO2削減認証書を発行します。

NPO法人エスコット
千葉県柏市東上町4-17 ・ info@npo-escot.org ・ https://npo-escot.org ・ 04-7166-4151

QR活用：仕組みさえ解ればすぐに導入可能
初期コストはパネル代のみ



記載例：

QRマッチング・システム、空荷走行中で荷受け可能です。東北運送株式会社、
080-1111-1111、移動先：東京都大井

タイプ：40ft背高コンテナ、ナンバー：東北00-11、
問い合わせ連絡先：<https://npo-escot.org/qrsys/>

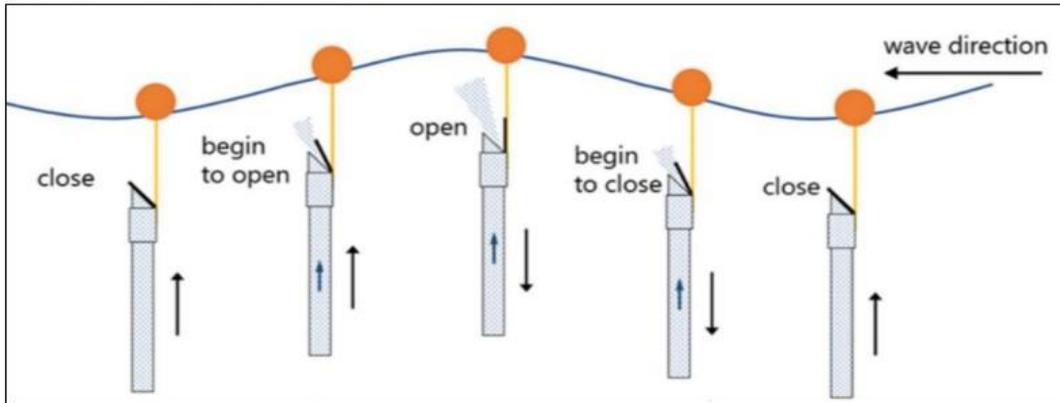
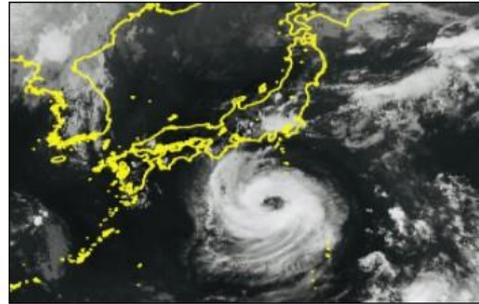


直接コンタクトし詳細打ち合わせを実施

NPOエスコットの最新活動：波動式湧昇ポンプ開発

＜海洋プランクトン増によるCO2回収、水産資源増、台風制御プロジェクト＞

<https://readyfor.jp/projects/escot>



Experimental site in Onjuku fishing port Chiba, Japan.

Wakame seaweed was found breeding outside the upwelling pipe and juvenile prawns were also observed.

ご清聴ありがとうございます。